



さか い だ しげる
坂井田 茂

いっ しん かい
一津 会

津市美術展覧会の現状と課題について

問 市民の芸術的創作活動の集大成の場である津市美術展覧会、いわゆる「市展」も第9回を迎えたが、出品点数及び入場者数の推移から見られる傾向と課題は何か。また、全6部門（日本画・洋画・彫刻・美術工芸・写真・書）の同一期間、同一場所での展示が最も望ましいと考えるが、第10回「市展」に向け、さらに記念開催としての企画も含めて今後の方策について問う。

答 市展への出品点数は年々減少傾向にあり、ここ3年間で70点減少、入場者数はほぼ横ばいであるが、出品点数の減少は、市民の余暇の過ごし方や趣味の多様化に加え、新規出品者の伸び悩みが原因と分析している。第8回からは、中高生など若い世代の新たな出品者を開拓していき、学生の出品料を無料としたことにより、これまでなかった中学生の出品者が増えるなど成果も出てきている。

記念開催となる第10回市展に向けては、初心者向けの体験講座、出品作品を鑑賞するだけでなく新たな芸術体験ができるような企画、観覧者投票による「私が選ぶベストセレクション」など、より身近に市展を感じてもらえるようなアイデアが挙がっている。

●その他の質疑・質問●

○「平成26年度全国学力・学習状況調査」における津市の調査結果に関して

・津市の学力の現状と教育委員会としての見解は

○「みえスタディチェック」の活用状況に関して

・第1回実施（10月）の課題は
・問題用紙の印刷と製本は、教育委員会が行うべきでは など



▲審査員が作品講評を行う「作品鑑賞会」（第8回市展）



こ ばやし たか とら
小林 貴 虎

しみんくらぶ
市民クラブ

動かない救急車を無くすために

問 救急搬送における通報から病院到着までの平均時間は、平成21年が39.6分、以降短縮されることはなく平成25年では43分かかっている。

この4年間、直接的な改善方法である受け入れ先の拡充、医師の確保を目的とした事業実績等は見当たらず、積極的に取り組んだとは言いがたい。

今後どのように改善していくつもりか。

答 直接的ではないが、平成23年10月にスタートした津市救急健康相談ダイヤル24を利用することによって、不要不急の救急車を少なくし、実際に出勤する救急車が少しでも早く病院につくことに貢献していると思っている。また建設予定の応急診療所に駆け込んでいただくことによって、救急車の出勤を減らしていくことは可能であると思っている。ただ残念ながら、実際の救急車の出勤件数が、ここ10年間で40%増えているという事実がある中、受け入れ病院の数は同じであり、結果としてレスポンスタイムが短縮できない状況にある。したがって、もう少し工夫をし、お金をかけていくことも必要だと思っているので、そのあたりの取り組みを進めていきたいと考えている。

●その他の質疑・質問●

○三重県青少年健全育成条例に定めてある有害図書の陳列にかかる取り決めが実質機能していない。津市独自の条例を制定して対処することを求める

○中心市街地のにぎわいづくりに資するものとして津なぎさまちが建設されたはずである。市外からの流入増を目的に活性化事業を進めるべきだ



▲救急搬送時間の短縮に向け積極的な取り組みを